



相生だより

7月号 令和3年6月30日
大田区立相生小学校
校長 山口 勝己

「聞く」と「聴く」

副校長 山崎 禎久

6月は、「子どもの心サポート月間」でした。各学級で、日ごろの観察や面談、聞き取り調査などを行い、実態を把握した後、道徳や学級活動、各教科等の授業において、子どもの心を育てる活動に取り組んできました。

子どもの心を育てる、と言っても、簡単にその成果がみられることは難しいと考えます。日頃の学校での指導や支援を積み重ね、御家庭や地域住民の皆様の御理解と御協力があって、はじめて実現が可能となります。引き続き、御理解と御協力をお願いします。

さて、先々週、5年ぶりに学級担任(代行ですが)を経験する機会に恵まれました。

子どもたちの前に立つときに緊張したり、思わぬ場面で成長の瞬間を見ることができ、はっとしたりするなど、短い期間でしたが、懐かしい感覚を思い出しました。

その中で、改めて心掛けたことがありました。私が東京都で教員を始めたばかりのころ、ある資料で発見したもので、それ以来教員として基本の一つにしていた言葉です。

それは、「聞く」よりも「聴く」を大切にする、というものです。相手の話をただ聞くだけではなく、相手を見て、自分の心をしっかり働かせて「聴く」ことを心掛けよう、というものでした。

大人も子どもも、他の事に気を取られていたり、別のことを考えていたりすると、相手を見ずに話を聞いてしまい、大事なことが聞き取ることができないことがあると思います。

相手の顔をしっかり見て話を「聴く」ことは、相手に「あなたの話をしっかり「聴」いているよ」というメッセージにもなると考えます。そして、相手が何を伝えたいのか、相手がどのような答えを求めているのか、しっかり心を働かせて聴くことで、相手の話を十分に理解することができると思います。子どもたちにも、相手の話を「聴く」ことで、それぞれの心を育てていってほしいと思います。

各学年の教室を見て回ったり、休み時間の様子を見守ったりするときに、「副校長先生！」と声をかけてくれる子どもがとて多くなり、嬉しく思っています。今後も、相手をしっかり見て、心を働かせて話を聞いていこうと思います。

ついこの間、始まったと思った1学期も残り3週間で終了となり、夏休みに入ります。学習や生活のまとめをしっかり行い、誰もが達成感をもって夏休みを迎えられるよう、全教職員で協力し、努めてまいります。

7月の生活目標

身のまわりをきれいにしよう

